榊原康政像（さかきばらやすまさ） メイキングギャラリー

どうやって作られる？　～榊原康政像（さかきばらやすまさ）ができるまで～

中央緑道には、家康の天下統一を支えた「徳川四天王」の像が設置されています。これはいずれも岡崎の石工により制作されました。
今回はその中の一つ、「榊原康政像（さかきばらやすまさ）」ができるまでの過程を紹介します。（写真提供　岡崎石製品協同組合連合会）

1 石膏見本の作成



石は一度欠けたら、終了。そのため、まずは石膏で完成形のイメージを作ります。

2 原石加工



完成形のイメージができたら、実際に石材を加工していきます。まずは、ダイヤモンドカッターと呼ばれる大きな刃をもった機械を使って、余分な石を大きく切り落とします。榊原康政像をはじめ全ての四天王像は、岡崎市産の石材を使って創作されています。

3 墨付け



原石加工が完了したら、次の工程、「はつり作業」のために、原型のアウトラインを石の四面に書き込みます。まだこの時点ではどんな仕上がりになるのか、良く分かりませんね。

7 中間検査



加工作業を終えたら、中間検査を行います。
作品と原型を見比べ、表情・形・彫りの深さなど綿密に打ち合わせをします。

8 仕上げ作業





中間検査を終えたら、仕上げに移ります。甲冑の模様など細かな柄を彫っていく前に、より詳細に細部の形状を石膏の見本で確認します。

9 最終検査



細かな柄を彫り終えると、現地へ設置する前の最終検査を行います。現地へ搬入する前ということもあり、心なしか職人たちもじっくり石像の細かな形状を確認しているように見受けられます。

4 はつり作業



アウトラインを参考に、大きく石をはつるコヤスケ※や大きめのノミと槌を使って、おおよその形を作っていきます。この時点では顔や手などの細かい部分は加工しませんが、何となく、形が明らかになってきてますね。

※石を割り剥がすために使われるノミの一種。

5 むしり作業



はつり作業が終了したら墨付けとむしり作業を何回も繰り返し行います。小型のノミと槌で少しずつ石を削り落とすむしり作業を繰り返すことで、原型の形に近づけていきます。この時点で顔や手も作ります。

6 加工作業



根気よくむしり作業を続けながら、身体の動きに不自然なところはないか確認しながら微調整します。特に関節の動きやそれに伴う筋肉の動きに注意が必要です。骨格や筋肉がどう関係して動くのか観察しながらの作業になります。石が生き物のように変化していきます。この作業は中間検査前の最後の作業になるので、職人も特に集中して作業を行います。

10 台座設置



いよいよ、現地へ設置！…と、その前に石像を設置するための台座を現地に設置します。この台座も岡崎市産の石材を使って創作されています。

11 像の設置作業



重機等を使い、石像を台座に設置します。万が一がないように作業員全員がヒヤヒヤしながら、そして慎重に、作業を行います。

12 完成



設置作業が終了したら、完成！…ではなく、最後に細部をしっかり見直して、必要に応じて少し手直しをします。そうして、やっと完成になります。